令和6年度第1回千葉県がん対策審議会がんとその共生推進部会議事録

1 日 時 令和7年3月12日（水）午後5時00分から午後6時00分まで

2 場 所 WEB会議（Zoom）

3 出席委員

土井部会長、五十嵐委員、坂本委員、佐藤委員、関口委員、中田委員、中村委員、鍋谷委員、松村委員

4 議題

（1）審議事項

① 部会長の選出について

（2）報告事項

① 千葉県がんサポートブックの改訂について

② 千葉県がん患者アピアランスケア支援事業について

5 議事内容

（1）審議事項

① 部会長の選出について

○五十嵐委員

土井委員を推薦する。

○事務局

土井委員の推薦をいただいた。委員の皆様いかがか。

（異議なし）

○事務局

異議がないため土井委員に部会長をお願いする。

○土井委員

お引き受けする。

○事務局

これ以降の議事進行は土井部会長をお願いする。

(2) 報告事項

① 千葉県がんサポートブックの改訂について 【事務局より資料1に基づき説明】

○土井部会長

ただいまの報告に対して、何か御質問はあるか。

○鍋谷委員

千葉県がんサポートブック（以下、「サポートブック」とする。）内のがんゲノムの記載について、どなたが書かれたのか分からないが、少し修正が必要ではないかと思う。

○事務局

事務局案以外の箇所については、今後、各委員へ御相談をしていきたいと考えている。

○土井部会長

がんゲノムの記載については、アップデートをしていかないといけない内容が含まれているので、個別に確認をし、記載の整理をしていただきたい。ただ、記載については千葉県がんセンターの先生へ相談をしていただくのがいいかと思うが、いかがか。

○鍋谷委員

土井部会長のおっしゃるとおり、記載について慎重にアップデートしないといけないと思う。

○土井部会長

おそらく、がんゲノムの担当部署と厚生労働省の部署との整合性が、若干、ズレている部分があるので、記載について千葉県がんセンターの先生方と相談しながら進めていただければと思う。お願いをしてよろしいか。

○鍋谷委員

はい。

○土井部会長

お願いします。

○五十嵐委員

ACP、アドバンス・ケア・プランニングについて、千葉県ホームページを紹介しているが、ちばがんナビには載っていないのか。

○事務局

ちばがんナビに掲載があるか確認は取れていないが、千葉県ホームページには話し合いの進め方等分かりやすく記載があり、そちらを記載している。

○五十嵐委員

ちばがんナビに、同じようにリンクを貼るのでもいいが、できるだけ、がんに関する情報を集中させるようにした方がいいかと思う。ちばがんナビにもACPの情報を載せるべきかと思う。

○事務局

いただいた意見について、今後、検討していきたい。

○土井部会長

アクセスポイントは幾つもあった方がいいかと思うので、御検討をお願いしたい。

○坂本委員

サポートブックについて、ちばがんナビやがん情報サービスとの紐付け等、整えていかないと、色々と制度も変わっていったり新しい制度が出てきたときに、サポートブックに情報を追加していくとボリュームが増え、読み込めない人も出てくるのではと思う。

○土井部会長

利用できるリンクの URL だけを別ページにして、アクセスポイントを作るやり方もある。おそらく、各項目でリンクを飛ばすと、アクセスする側は困ってくるので、後ろにまとめてしまうというやり方もある。そうすると大きな改訂なく進めることができると思う。御検討いただければと思うし、必要であれば委員の皆さんに御相談ということでもよろしいか。

(異議なし)

○五十嵐委員

印刷部数について、各家庭に一冊や新たに受診した患者さんに渡せるという風に普及できたらと思う。必要な人に手渡せるぐらいの部数を印刷して、患者さんに渡せないかと思う。予算のところもあると思うがいかがか。

○事務局

予算のこともあり、部数については難しいところがある。今年度初めにちばがんナビのQRコードを掲載した名刺サイズのカードをがん診療連携拠点病院に配布している。ネット環境が整っている方にはちばがんナビを周知してもらい、ネット環境が整っていない方にはサポートブックというように使い分けをでき

たらと考えている。どういう手段がいいのかというところは検討していきたい。

○中村委員

サポートブックについては印刷するためのデータがある。がん診療連携拠点病院は事業費があるので、事業費を適正に使ってもらい、情報提供のためにデータを冊子にするということをしていただきたいと呼びかけていいのではと思う。なので、地域で手に取りやすいところにサポートブックを置くことや、図書館や事業所等、印刷費用を割きづらいところに配布するという工夫ができればいいなと思う。

○事務局

参考にしたい。

○土井部会長

電子ファイルでは文字検索ができるので、自分の知りたいところを開くのに、ページを探していくよりは、その文字を拾っていくというメリットがある。多くのものはQRコードだけ書いてあり、上手に使うためのコーナーを作ってもいいのでは。ユーザーの方の利便性が高いということを強調してもいいと思う。

② 千葉県がん患者アピアランスケア支援事業について

【事務局より資料2に基づき説明】

○土井部会長

ただいまの報告に対して、何か御質問はあるか。

○五十嵐委員

予算は足りているのか。

○事務局

市町村に対して次年度の見込みを出してもらい、予算要求している。それでも今年度は2月補正で増額をしている。令和7年度予算についても令和6年度より増額して要求している。それでも足りない場合は、今年度と同様に補正の対応を行い、申請された金額の支援をできるよう体制を整えていきたい。

○坂本委員

アピアランスケア支援事業の情報をキャッチできていない患者さんも一定数いると思うが、ちばがんナビにも情報更新しているのか。

○事務局

ちばがんナビの市町村の情報を発信する箇所があり、情報をアップしている。千葉県ホームページでも各市町村の情報をアップしており、そこから市町村のア

ピアランスケアのページに飛べるようになっている。

○関口委員

患者会の患者仲間より市町村の実施状況がわからないという声があり、患者会にて一覧表を作成した。見てわかるような一覧になっているといいなと思った。各市町村の表現の仕方が違い、各市町村に電話をし確認をしたが、個人でやるのは難しい作業だと思った。わかりやすい方法でまとめてもらえるといいと思う。

○中村委員

ちばがんナビのお知らせに随時、開始した市町村は載るが、アピアランスケアについてのページには市町村の一覧は載っていない。がん相談支援センターに相談がきて、市町村のホームページの検索をし、情報を探すということをしないといけないので、情報集約は必要だと思う。

○土井部会長

確認だが、県に助成等で予算がつき、分配をしているのか、市町村が自主的に県に申請をして、分配をしているのか。

○事務局

患者さんが、制度を設けている市町村に申請し、市町村が患者さんに対して助成している。市町村が1年間分の実績の額を県に報告し、その額の2分の1を県が市町村に交付する。

○土井部会長

市町村がアクションをしないと県に申請はできないのか。

○事務局

制度を設ける市町村に対しての制度となる。

○土井部会長

予算は県が最初に用意していて、市町村が要望したときに初めて成立するのか。

○事務局

そのとおりである。

○土井部会長

あくまで主体は市町村で、整備をしなければならないことになっている。なので、県から市町村に指示ができるものではなく、市町村が整備して県に請求するというのでいいのか。そうすると、窓口業務のところは、市町村がわかりやすい形の整備をしないといけないという理解でいいのか。

○事務局

そのとおりである。患者さんが申請するのは市町村になるので、市町村の制度の発信をわかりやすくしてもらうのはいいと思う。

○土井部会長

県がこういうフォーマットで、市町村に作りなさいというデフォルトは提示できていないということによろしいか。

○事務局

市町村ごとに制度の内容や対象品目も違うので、フォーマットという形が示せるかどうか、検討が必要かもしれない。

○坂本委員

がん相談支援センターでは地域を越えて相談を受ける。市町村が工夫をして情報発信をすることも大事だが、ちばがんナビがあるので、情報集約いただけるとありがたい。

○土井部会長

各市町村で、補助の考え方が違っているのを、各自治体の考え方をええろという指示がこの部会からできるのかということになっていると思う。各市町村で制度設計したものに対して、県の方から出すという形になっているので、県からこういう形でない補助金を渡しませんというのが、今の状況では難しい気がする。千葉県がんセンターや国立がん研究センターで意識の擦り合わせはできると思うが、自治体へこうしなさいというのは難しいのではないか。各自治体が制度設計するところに、この部会が入っていくかどうかということになると、この説明の仕方では患者さんが理解できないので、変えてくださいというのを一つ一つの市町村レベルでやらないといけない可能性がある。

○坂本委員

私のイメージでは、市町村名とウィッグの購入費補助をしているマルバツのような一覧を作成し、ちばがんナビに載せるというようなことが、情報発信としてできるのかという提案だった。

○土井部会長

全ての市町村へ自分たちが行っていることを提示していただき、Web上に載せるということ。実際に行っている内容を一覧表にしたときに、内容に変更があるときにはリアルタイムでアップデートしていかないといけない。

○事務局

各市町村も制度設計を患者さんの要望に対して随時見直しを行い、対象となる品目を変えたりしている。県民から問い合わせが来たときには当該市町村に必ず

確認をしてくださいとお願いしている。

○土井部会長

患者さんが専門用語を理解できないところがあるので、その点についてコンテンツがあってもいいのかもしれない。

○事務局

同じ対象品目について違う名前で掲載をしていたり、補助の対象範囲が変わっていたりする。患者さんがわかりづらいということや、がん相談支援センターが案内しづらいということを今、聞いたので、今後、検討をしていきたいと考えている。

○松村委員

住んでいる市町村によって、受ける、受けられないと差があるので、他の市町村にも広がるように働きかけをお願いしたい。

○事務局

令和5年度に事業を開始して以来、市町村に対して様々な機会を活用し制度の創設等についてお願いをしてきた。また、国に対しても全国衛生部長会を通じてアピアランスケアへの支援についても要望を行っている。

○土井部会長

特定の事業者に対してというのは難しいと思うが、対象品目についてこの事業者から購入できるという千葉県のアピアランスケアのためのサイトを作り、患者さんにとって、欲しいものが何か、それを受けられるのかという視点の方がわかりやすい。患者さんが住んでいる市町村で、例えばウィッグであれば受けることができる、できないということが一番、知りたいことなので、そういうやり方もあるということで整理していただければと思う。色々な工夫が必要であれば、皆さんの御意見を聞きながら進めていければと思う。

○土井部会長

その他、何か御発言はあるか。

(発言なし)

○土井部会長

本日の準備された議題は以上で終了する。

【議事終了】